

**2003年9月期
中間決算説明会**

2003. 11. 10

ヤマハ株式会社

04/3期 中間期 決算概要

2Qの状況

- 2Qは、前年同期、及び前回(8/8)予想に対し、増収増益
- ユーロ売り予約でのヘッジ効果による2Qの為替益は
前回(8/8)予想比11億円

中間期の状況

- 2期連続で中間期営業利益、中間純利益とも過去最高益を更新
 - 営業利益 264億円 (過去最高 03/3 131億円)
 - 中間純利益 262億円 (過去最高 03/3 100億円)
- 売上高は2期連続で前期比増収 (+4.9%)
楽器及び半導体の増収が主因
- 中間期末棚卸資産は、ほぼ適正水準の865億円
(前年同期比 ▲42億円、 前回予想比 ▲23億円)
- 中間期末の実質有利子負債は、467億円
(前年同期比▲228億円、 前回予想比 ▲12億円)

04/3期 中間期 業績概要

➤ 前年同期実績及び 前回(8/8)予想に対し増収増益 (億円)

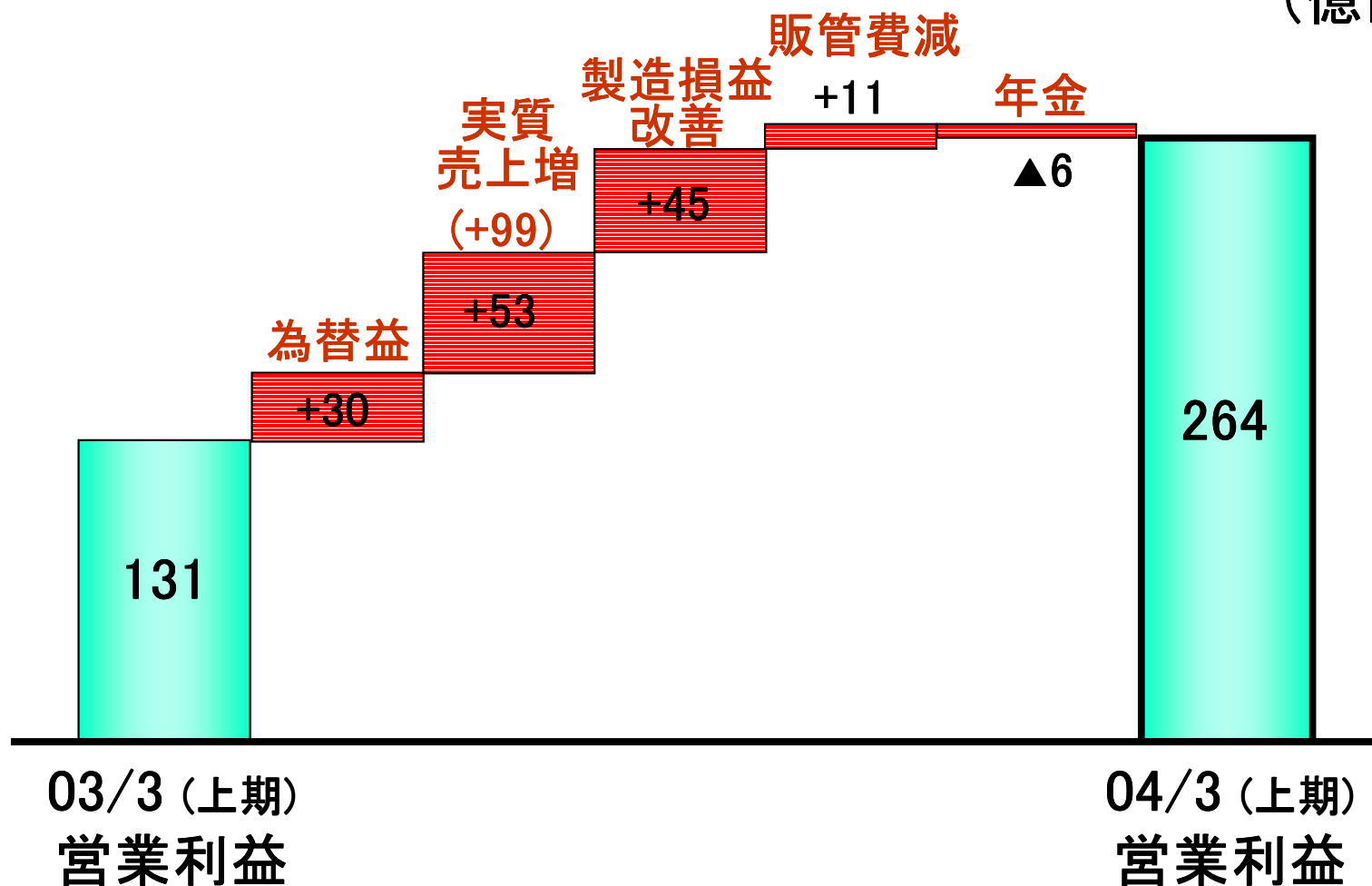
	03/3 (上期) 実績	04/3 (上期) 実績	前年 同期比	04/3 (上期) 前回予想	予想比	(2Q) 実績
売上高	2,537	2,662	+4.9%	2,640	+0.8%	1,401
営業利益 (営業利益率)	131	264 (9.9%)	+101.6%	205	+28.9%	146
経常利益 (経常利益率)	142	297 (9.3%)	+109.0%	215	+38.4%	163
当期利益 (当期利益率)	100	262 (8.0%)	+160.6%	190	+38.2%	136

為替レート

売上高	US\$	123	118	119
	EUR	117	133	130
利益	US\$	122	119	120
	EUR	115	127	125

中間期營業利益增減分析

(億円)



03/3
(上期)
実績

04/3
(上期)
実績

04/3
(上期)
前回(8/8)予想

営業外損益

(億円)

持分法利益	35	52	39
金融収支	▲6	▲4	▲7
その他	▲18	▲15	▲22
計	+11	+33	+10

特別損益

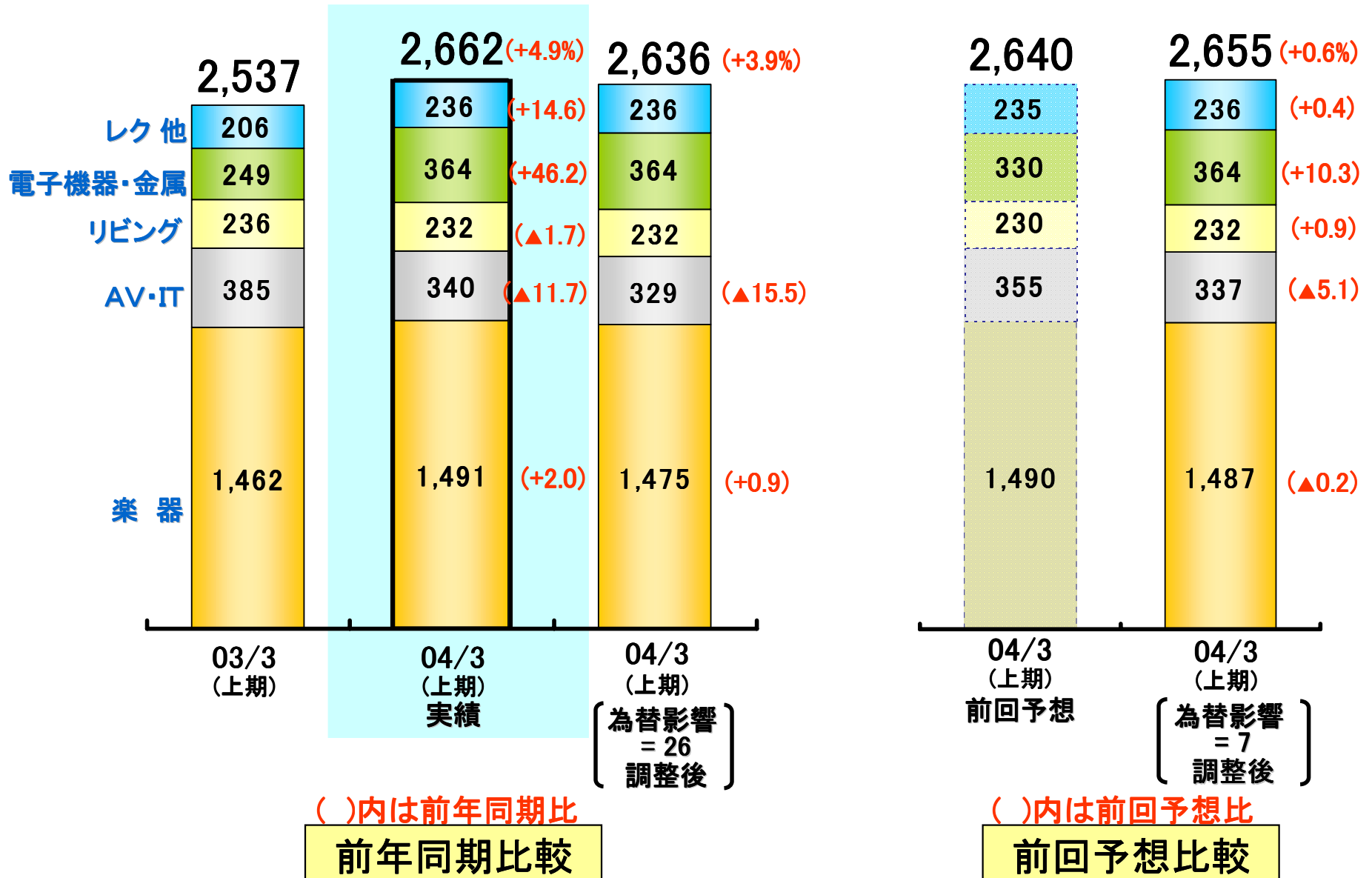
固定資産処分損益	▲5	▲5	▲5
その他	▲15	▲5	0
	・投資有価証券 損益 ▲16	・EC制裁金 ▲3 ・アルザスAV 工場解散 ▲2.5	
計	▲20	▲10	▲5

法人税他

法人税等	19	22	18
少数株主持分	3	3	2
計	22	25	20

中間期 事業別売上高

(億円)



中間期 事業別営業利益

(億円)

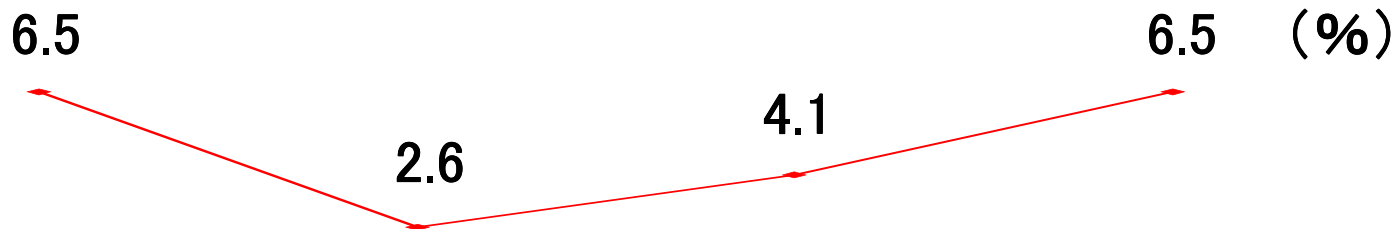
	03/3 (上期) 実績	04/3 (上期) 実績	+ / ▲	為替 影響	実質 + / ▲	前回 (8/8) 予想
楽 器	60	97	+37	+19	+18	70
A V ・ I T	10	14	+ 4	+11	▲7	15
リ ビ ン グ	5	11	+ 6		+ 6	8
電子機器・金属	59	142	+83		+83	115
レクリエーション	▲ 8	▲ 5	+ 3		+ 3	▲ 4
そ の 他	5	5	0		0	1
計	131	264	+133	+30	+103	205

* 前回(8/8)予想との比較では、+59億円。
うち2Qでの為替影響は11億円(楽器 7億円、AV・IT 4億円)
従って、実質ベースでは前回予想に対し、48億円の増益

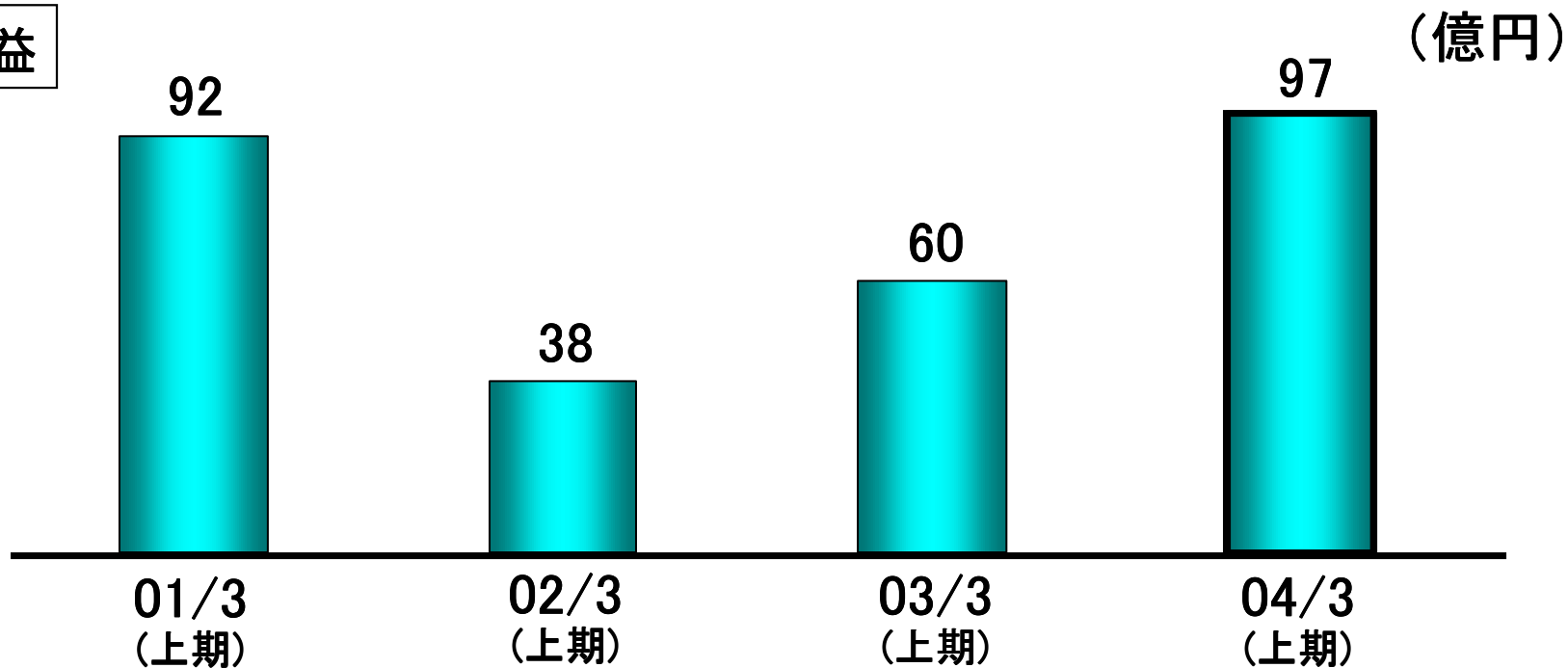
楽器事業の収益性回復

➤ 当中間期での売上高営業利益率は01/3 (上期)並みまで回復

売上高営業利益率



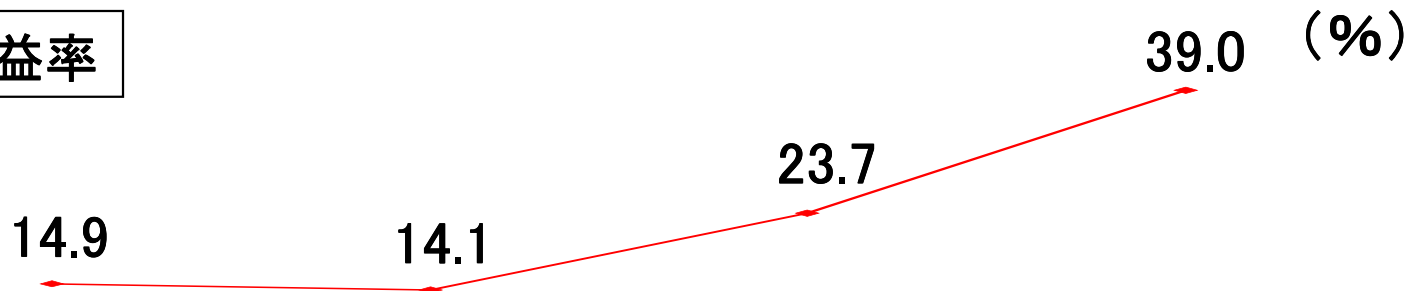
営業利益



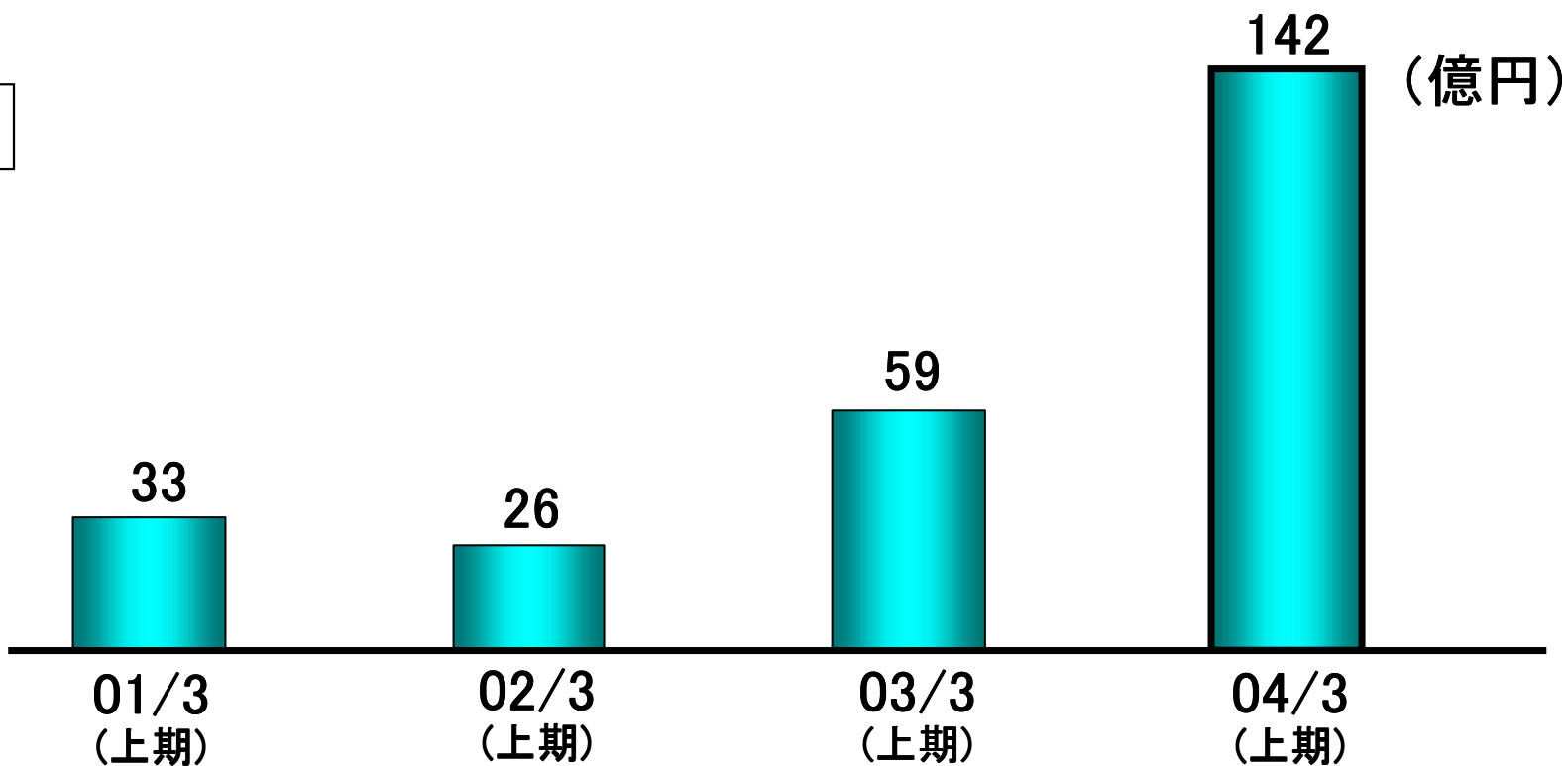
電子機器・金属事業の収益性向上

➤ 当中間期の売上高営業利益率は前年同期比大幅な上昇

売上高営業利益率



営業利益



半導体ビジネス好調の背景

- 携帯電話市場の伸長と和音搭載進行(市場の拡大)
- ヤマハ独自のFM音源 + Wave Table (PCM音源)
 - FM音源データの軽量特性、音色合成の自由度(効果音など)と、PCM音源データ・サンプリング技術
- SMAF、コンテンツ(着メロ)、音源チップ(ハード)のシナジー
 - ・音源チップ周辺のソフト、ツール、音色が最適化されたSMAFの充実
 - ・ハンドセットメーカーへの技術提供:モノと人
- 楽器開発に伴う音づくりのノウハウ蓄積
- 量産に伴うコスト競争力

上期の主な施策、トピックス

■営業

- ・中国持株会社業務開始(4月)
但し、SARS影響により、進捗遅れ
中国ピアノ工場は土地取得遅れもあり、生産開始6ヶ月遅延(来年秋)
- ・AV中国工場生産開始(3月)
- ・楽器レンタルサービススタート(4月)
初年度目標2,000件を3,000件に上方修正

■リストラ

- ・インバー材事業は予定どおり7月生産終了
- ・寸座ビラは6月末にて営業終了
- ・AVフランス・アルザス工場、11月末にて生産終了決定
- ・熱電素子事業を事業開発本部内へ移管縮小

■その他

- ・年金基金代行分返上決定(将来分認可 11/1)

下期の事業環境

■全体

- ・ 世界景気は引き続き不透明、不安定

■楽器

- ・ 中国製ピアノ、管楽器増加
- ・ ソフト・ネットワーク市場拡大

■AV・IT

- ・ HTコンポ市場縮小、HTシステム市場拡大
- ・ 低価格の中国製/中国ブランド品台頭
- ・ デジタル化・ネットワーク化進行

■リビング

- ・ 住宅ローン優遇税制の反動により、年明け以降は市場悪化の兆し
- ・ 業界はリフォーム需要に向けた動き活発化

■半導体

- ・ 2003年度世界携帯電話販売台数は前年比10～15%増
- ・ 併せて高機能化が進行

■電子金属

- ・ 半導体市況は回復の動きが見られるものの、先行き不透明

■レクリエーション

- ・ 低価格化継続と選別化の動き

通期 業績予想

(億円)

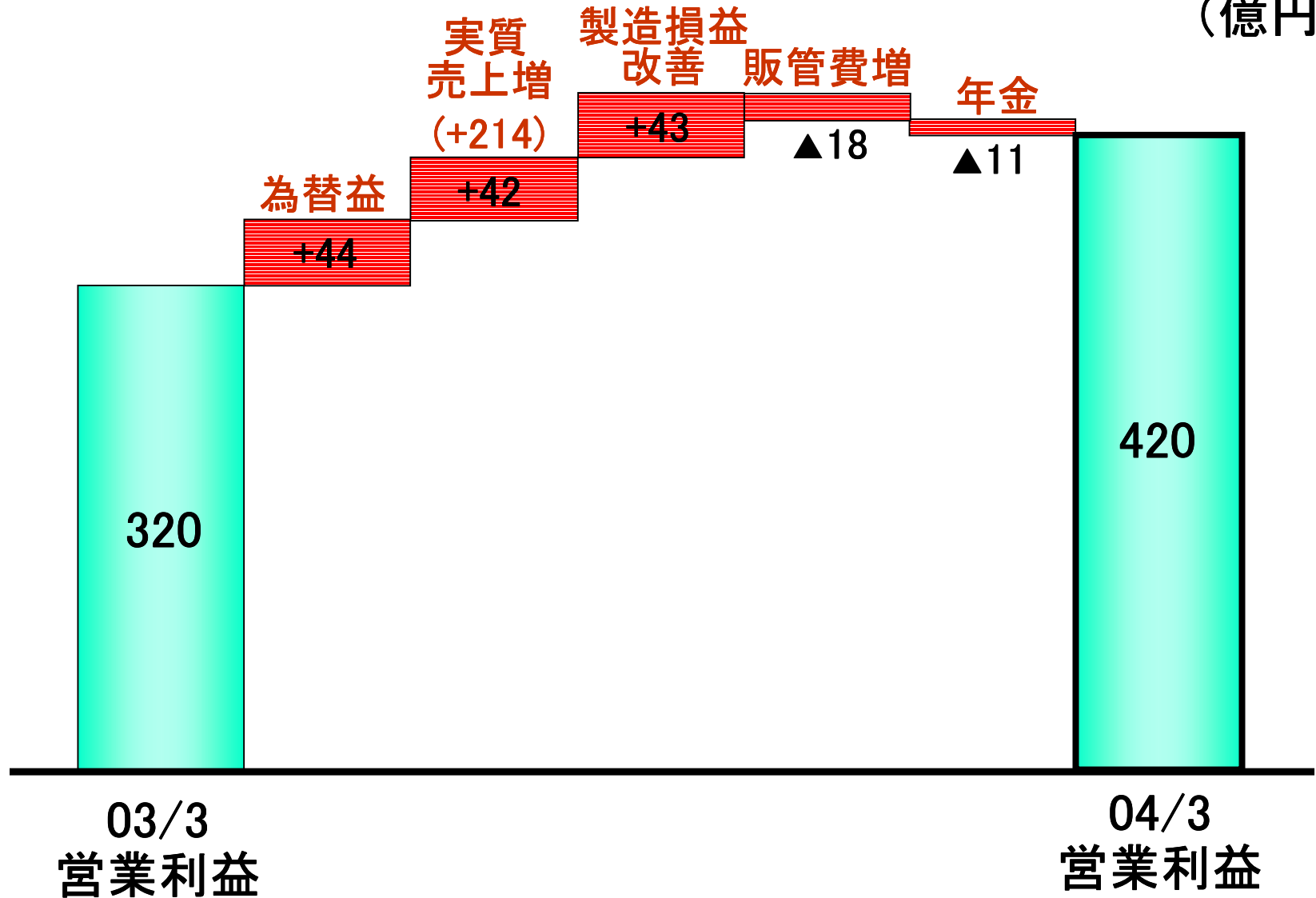
	03/3実績			04/3予想			伸び率
	上	下	計	上	下	計	
売上高	2,537	2,710	5,247	2,662	2,778	5,440	+3.6%
営業利益 (営業利益率)	131	189	320 (6.1%)	264	156	420 (7.7%)	+31.3%
経常利益 (経常利益率)	142	196	338 (6.4%)	297	178	475 (8.7%)	+40.5%
当期利益 (当期利益率)	100	79	179 (3.4%)	262	153	415 (7.6%)	+131.8%

為替レート

売上高	US\$	123	121	122	118	110	114
	EUR	117	125	121	133	125	130
利益	US\$	122	121	122	119	110	115
	EUR	115	118	116	127	125	126

通期 營業利益增減分析

(億円)



03/3
(下期)
実績

04/3
(下期)
今回予想

04/3
(下期)
前回(8/8)予想

営業外損益

(億円)

持分法利益	41	50	51
金融収支	▲8	▲6	▲8
その他	▲26	▲22	▲23
計	+7	+22	+20

特別損益

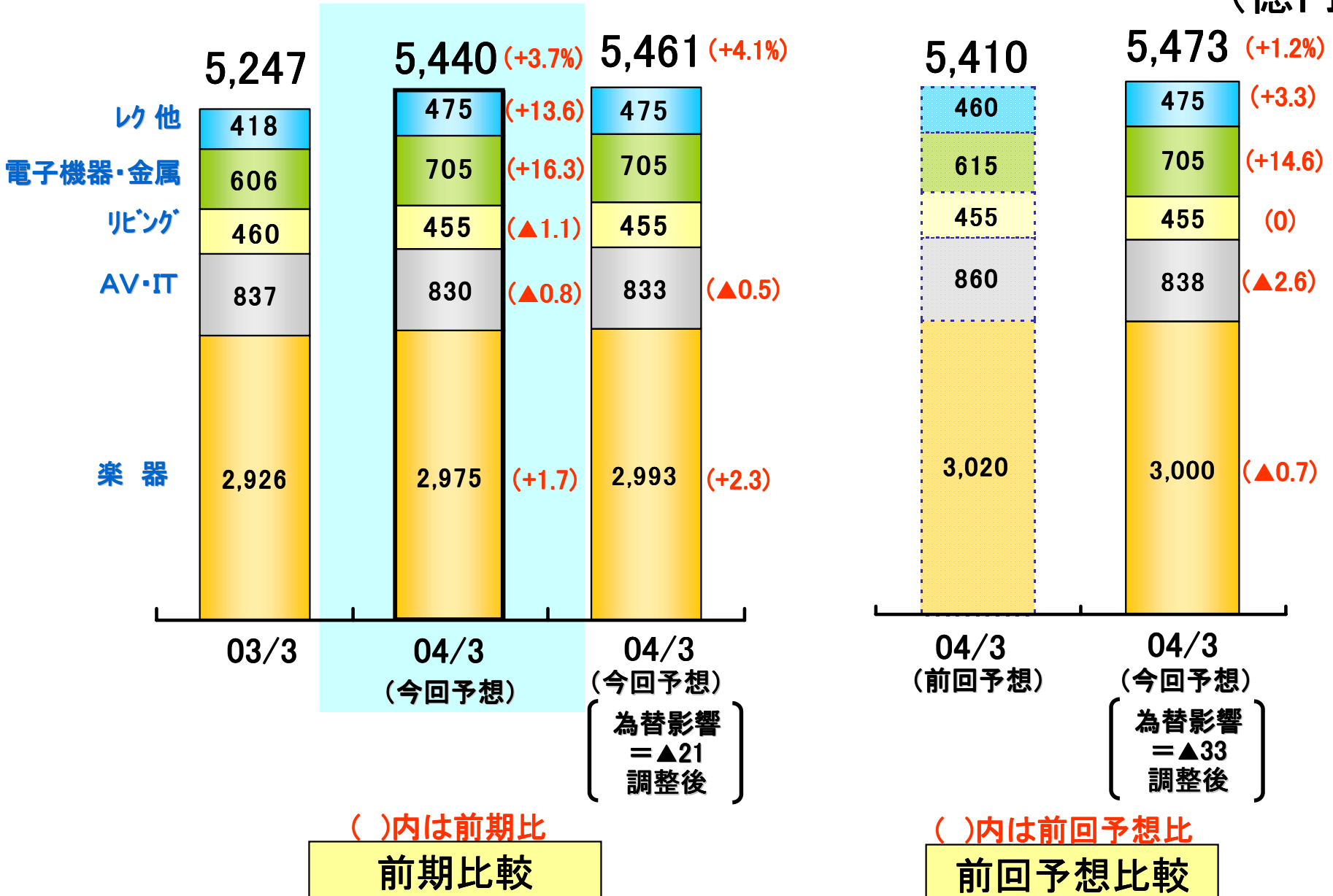
固定資産処分損益	▲5	▲5	▲2
その他	▲87	0	2
	<ul style="list-style-type: none"> ・投資有価証券損益 ▲64 ・事業撤退損 ▲23 		
計	▲92	▲5	0

法人税他

法人税等	22	19	33
少数株主持分	3	1	2
計	25	20	35

通期 事業別売上高予想

(億円)



通期 事業別営業利益予想

(億円)

	03/3 実績	04/3 予想	+/ ▲	為替影響	実質 +/ ▲	前回 (8/8) 予想
楽 器	98	120	+22	+24	▲ 2	120
A V ・ I T	32	40	+ 8	+20	▲ 12	37
リ ビ ン グ	5	10	+ 5		+ 5	8
電子機器・金属	193	250	+57		+57	177
レクリエーション	▲ 11	▲ 5	+ 6		+ 6	▲ 5
そ の 他	4	5	+ 1		+ 1	3
計	320	420	+100	+44	+56	340

* 前回(8/8)予想との比較では、+80億円。
うち為替影響による増益は11億円(楽器 2億円、AV・IT 9億円)
従って、実質ベースでは前回予想に対し、69億円の増益

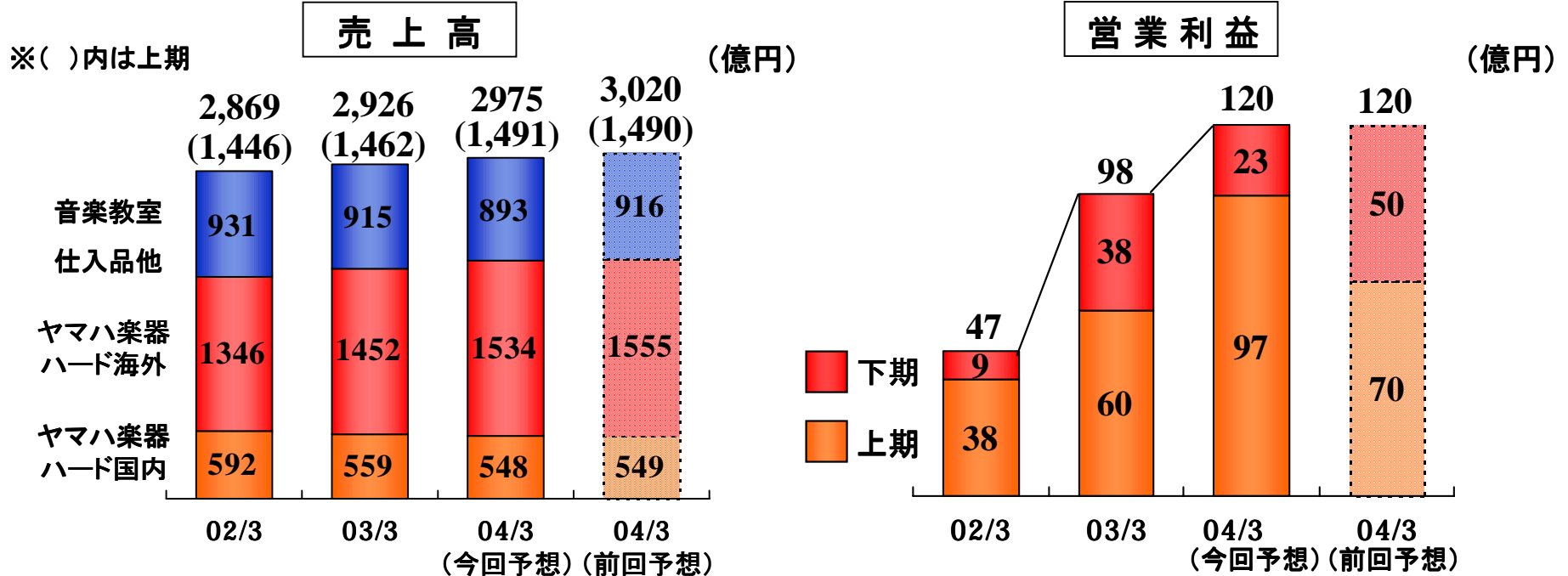
楽器事業

■上期の状況

- ・アメリカ市場は流通在庫調整一巡し、前回予想、前年比とも増収、欧州も総じて順調
- ・中東、韓国を中心とするアジアでの増売
- ・商品別には、海外中心に電子楽器が堅調
- ・中間期末での在庫は、ほぼ適正水準

■下期の重点施策

- ・欧米市場での安定成長継続と中国・韓国市場政策の推進
- ・国内は成人需要開拓と業務効率化による収益力の改善
- ・SCM推進により一層の在庫削減



着メロ配信事業の進捗状況

■ 日本

ヤマハの会員数は伸び悩み

市場:

- ・市場は飽和状態、新興勢力台頭。市場規模は推定700～800億円、着うた伸長
- ・会員数は、全体で約3,300万人で頭打ち、競争激化

施策:

- ・7～8月にTV-CMによる会員拡大策実施
- ・スクラップ&ビルド(撤退と立上げ)による収益性強化

■ 海外

ヤマハは積極的な布石を継続するも、目立った成果には繋がっていない

市場: <米国> 着メロビジネスが伸長、但し楽曲使用の許諾部分がネック

多彩なフォーマット: SPMIDI, SMAF, SMF, CMX, iMelody

<欧州> Vodafone Live! は、欧州全体でDL数100万/月

<中国> ローカルCPは現在4～5社、SARS影響と端末普及の遅れ

施策: <米国> AWS向け開始(7月)。事業主体を日本から米国へ移管

<欧州> 仏Bouygues開始(8月: 現在2,000人)

<中国> China Unicom向け開始(7月)。

現地スタッフ採用によるローカル対応強化。今後の成長期待

<台湾> TCC会員数が2万人を突破。売上大幅増

AV・IT 事業

■ 上期の状況

- ・競争激化と市場変化対応遅れにより前年比、当初予想比とも減収
- ・ルーターは企業向け順調

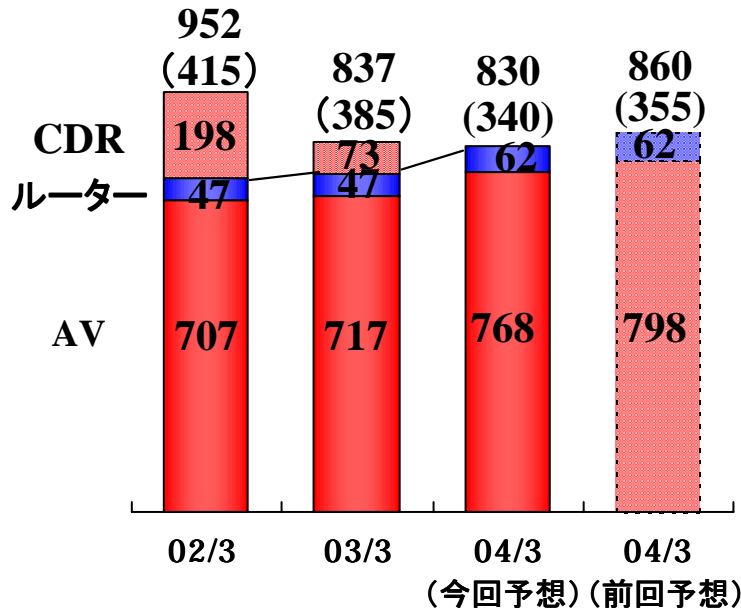
■ 下期の重点施策

- ・新商品の確実な市場導入による売上確保
- ・中国市場政策の推進、軌道乗せ
- ・新規商品 (MusicCast等) の拡売

※()内は上期

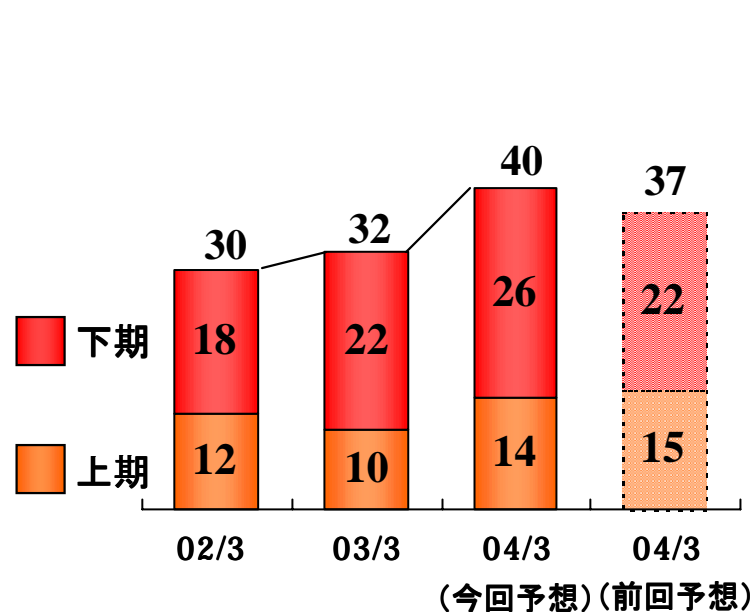
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



電子機器・金属事業

■上期の状況

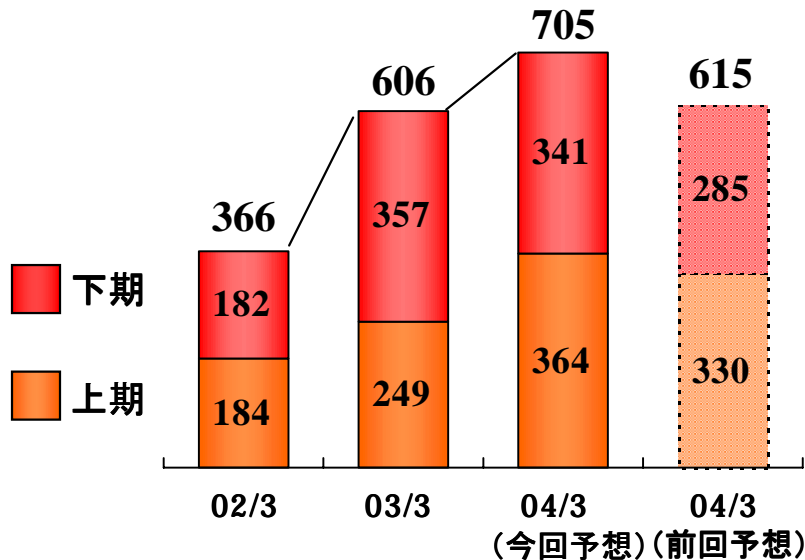
- ・携帯電話用音源チップが2Qに回復し、半導体事業は好調持続
- ・インバー撤退に伴い、電子金属事業採算改善
- ・市況悪化により当面事業化の目処が立たない熱電素子(ペルチェ素子)事業は事業開発本部へ組織変更

■下期の重点施策

- ・半導体ビジネスでの収益力維持
- ・電子金属事業の収益力強化

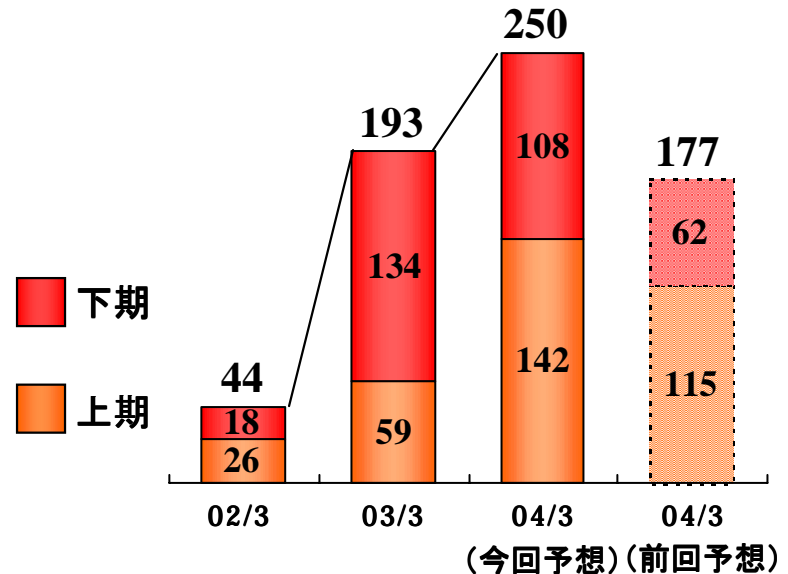
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



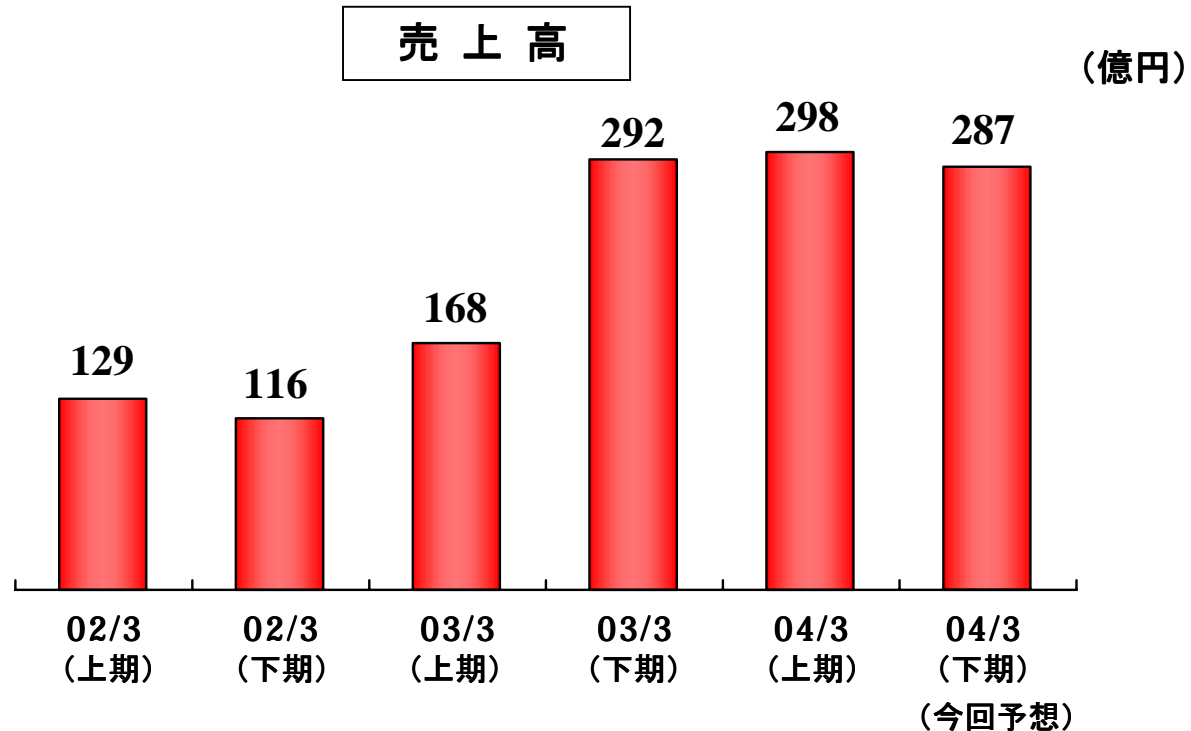
半導体事業

■上期の状況

- ・携帯電話用音源チップはSARS禍、在庫調整により、1Qで失速したものの、2Q以後、中国、韓国中心に回復
- ・アミューズメント用半導体は期を通じて堅調に推移
- ・在庫はほぼ適正レベルまで低下

■下期の重点施策

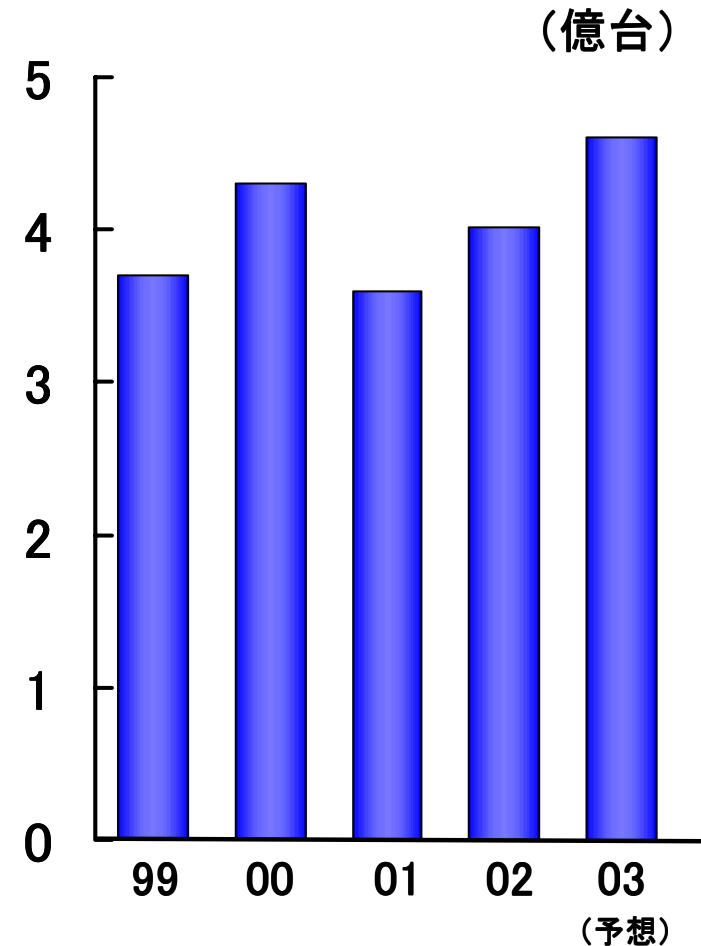
- ・携帯電話用音源チップビジネスでの優位性維持
アジア市場での増売
市場が拡大する欧米での拡売
- ・アミューズメント用半導体ビジネス拡大



世界の携帯電話端末市場動向

■03年の状況

- ・携帯販売は、対前年同期比で、
1-3月期:18%増、4-6月期:12%増
- ・SARSによる影響は5月末でほぼ収束し、
ハンドセットメーカーの在庫調整も7月で終了
- ・欧米でカメラ機能付きカラー液晶端末が認知
- ・中国市場では、北京、上海、広州などの大都市に
機種変更ユーザーが急速に拡大
- ・日本は、カメラ機能付き携帯電話が約9割に達し、
第3世代(3G)携帯市場が増加傾向
- ・韓国市場は飽和状態になりつつあるものの、
W-CDMA方式サービスは年末よりソウル地域で
開始予定
- ・年明け以後、携帯電話市場の調整懸念



Source: 「日経マーケット・アクセス」

(注:03年予想はIDC)

世界の携帯保有(販売)台数と音源チップビジネスの状況

	携帯保有台数 (推定)	年間販売台数 (推定)	携帯音源チップ市場動向
日本	7,860万台	4,800万台	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラ付き携帯の新製品ラッシュ、買い換え需要増 ・第3世代(3G)携帯電話市場の拡大 ・32/40和音から64和音への移行が進行中
韓国	3,320万台	1,500万台	<ul style="list-style-type: none"> ・64和音モデルの導入加速化、但し市場は飽和状態 ・高速化とW-CDMA方式サービス開始('03年末～)
中国	2.35億台	1億台弱	<ul style="list-style-type: none"> ・中国国内メーカーの販売シェアが50%を超える ・都市部における機種変更ユーザーの急増 ・16和音から40/64和音へ向かう見込み
欧米	5億台	2億台	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラ付きカラー液晶端末が認知 ・着信メロディ配信サービスのCP増加、競争激化 ・32和音以上の音源搭載モデルの販売増加
その他	5億台	1億台	<ul style="list-style-type: none"> ・南米、東欧、中東及びアフリカ市場での販売増加 ・CDMA方式末端市場の拡大 ・単音から和音化への動き

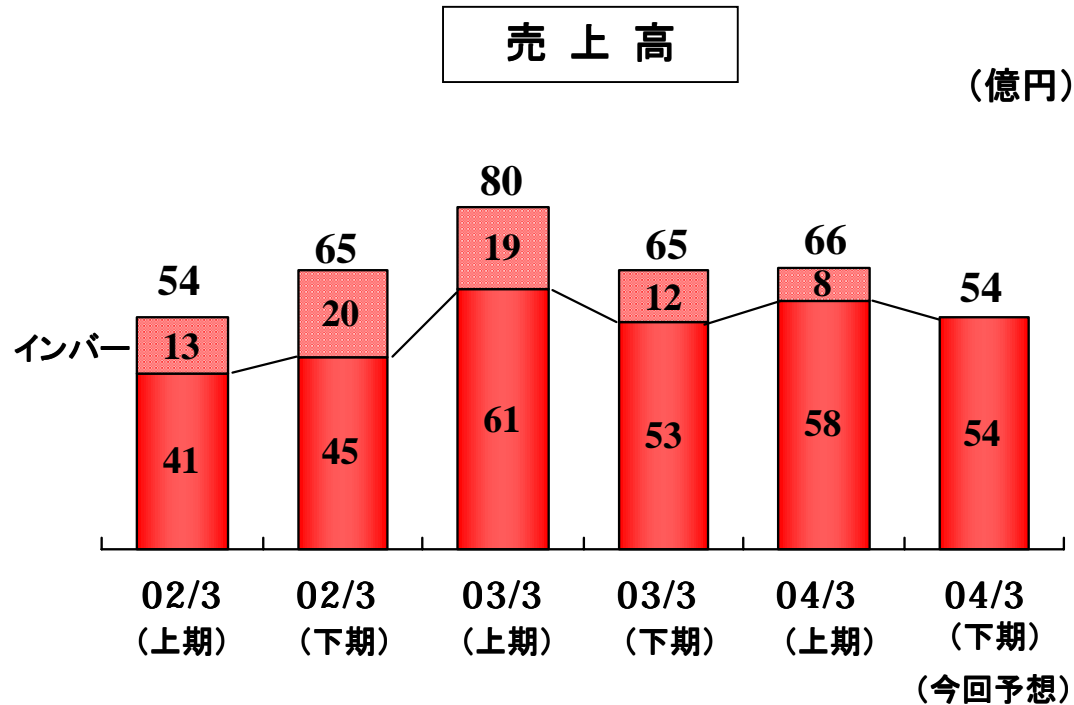
電子金属事業

■上期の状況

- ・インバー材生産は予定通り7月で終了
- ・リードフレーム材への絞り込みによる収益改善

■下期の重点施策

- ・銅系を中心とするリードフレーム材のシェア拡大
- ・製造工程見直しによる収益力強化と、在庫の圧縮



リビング事業

■上期の状況

- ・主力の卸ルート苦戦し、前年同期比減収
- ・損益はコストダウン奏功し改善

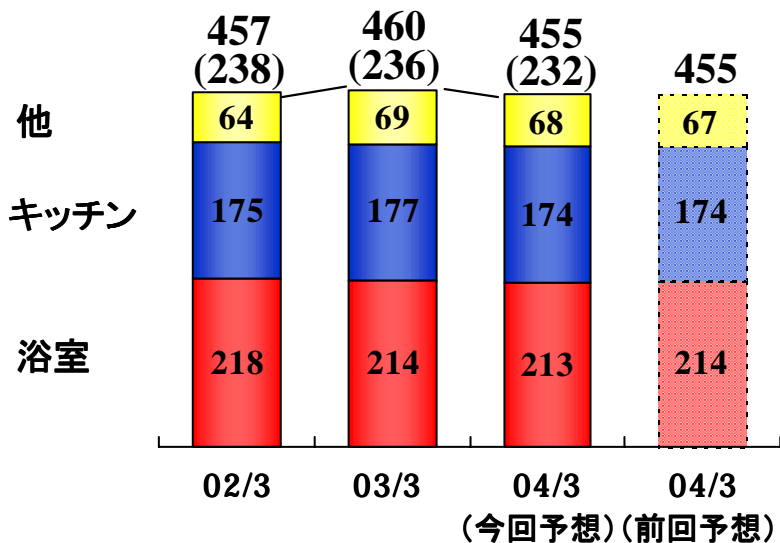
■下期の重点施策

- ・製造コストダウンを中心とした固定費圧縮による損益分岐点引き下げ
- ・エア・ウォーター・リビング社との新商品の共同開発、成果は来期以降
- ・今後拡大が見込まれるリフォーム市場対応強化

売上高

(億円)

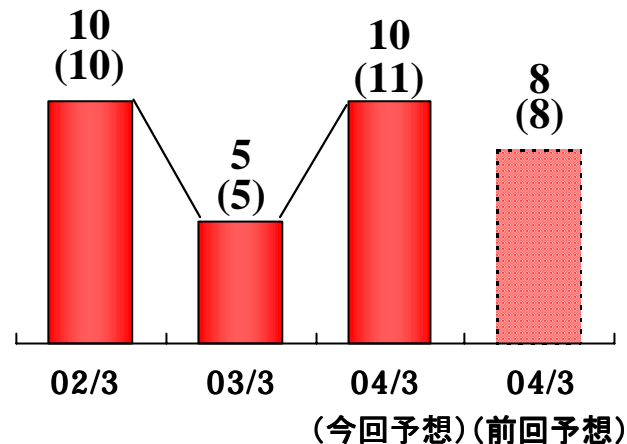
※()内は上期



営業利益

(億円)

※()内は上期



レクリエーション事業

■ 上期の状況

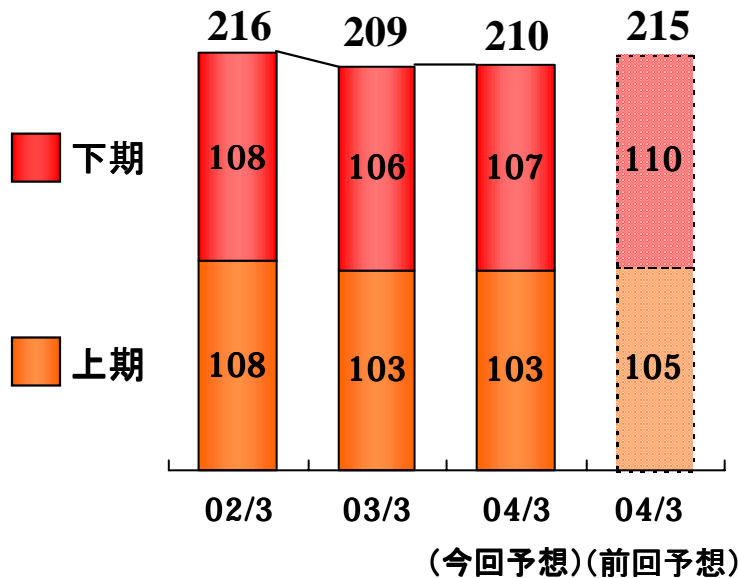
- ・冷夏により、日帰り、ゴルフ減少。宿泊は対前年、対計画とも増加
- ・寸座ビラは予定通り6月末で営業終了

■ 下期の重点施策

- ・宿泊を中心に集客数確保
- ・営業効率の向上と固定費圧縮による収益性強化
- ・施設ごとの収益性を継続的にモニター

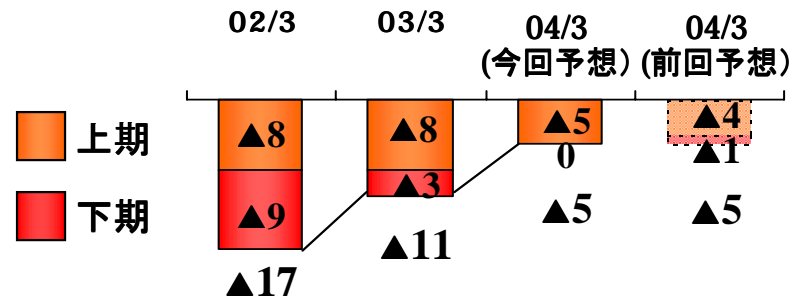
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



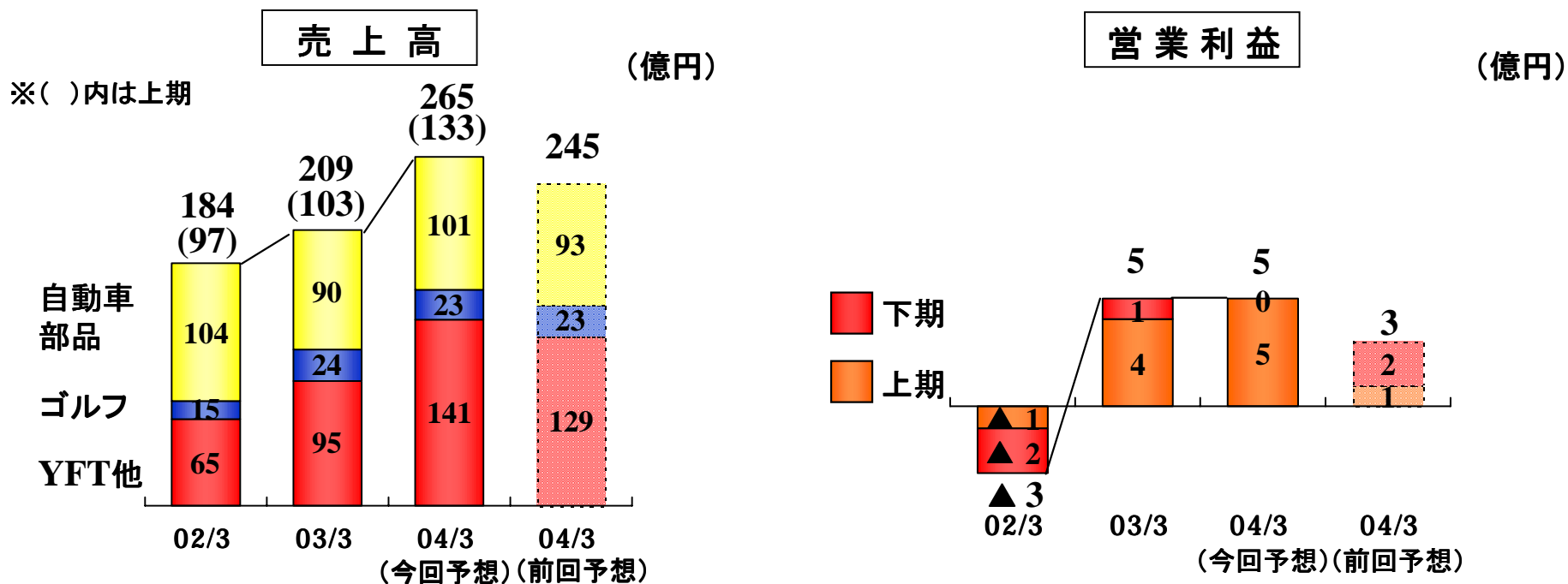
その他事業

■上期の状況

- ・携帯電話用Mg部品はフル生産継続
- ・自動車用内装部品は増産に伴い前回予想に対し増益
- ・ゴルフは高い市場評価と生産委託によるコスト改善により黒字定着

■下期の重点施策

- ・携帯電話用Mg部品の収益力強化
- ・自動車用内装部品は、上期に続き増産が見込まれる中での確実な利益確保
- ・ゴルフは12月発売の新商品軌道乗せ



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。



YAMAHA

感動を・ともに・創る